

性の多様性を理解し、多様な解をうみだす対話的ツールの開発と自殺予防

心理学およびその関連分野

研究者所属・職名 : 健康メディカル学部・准教授

ふりがな しょうじま さちこ

氏名 : 莊島 幸子

主な採択課題 :

- 基盤研究(C)「性の多様性をめぐる対話的関係の形成を目指したゲーミング教材の開発と実践」(2022-2026)
- 若手研究(B)「教育現場における性同一性障害／性別違和の児童・生徒への支援の方法に関する研究」(2015-2022)
- 研究活動スタート支援「クエスチョニングの発達過程をめぐる縦断的実証研究」(2013-2014)

分野 : 臨床心理学、教育学

キーワード : 多様な性、自殺予防、ナラティブ、対話的実践、ゲーミング

課題

●なぜこの研究をおこなったのか？(研究の背景・目的)

性的指向や性同一性が非典型である、性的マイノリティとされる人々(SOGI非典型者)への社会的関心が高まり、国や自治体、大学などの取り組みが進みつつあるが、差別やいじめは後を絶たず、自殺関連行動が高率で生じている。本研究は、自殺のピーク期とされる青年期後期のSOGI非典型者のメンタルヘルス支援、環境づくりを喫緊の課題として捉え、彼らが過ごしている大学を支持的、受容的な場に変容を促すことを目的とする。本研究は大きく研究A,B,Cから構成されている(図1)。

●研究するにあたっての苦労や工夫(研究の手法)

本研究が目指すのは、SOGI非典型者と典型者の関係性の変容である。“SOGI非典型者がいかにして大学という生活の場において、彼らに対する肯定的なメッセージを得られるのか(所属感の増大・孤立感の低減)” = “SOGI典型者がいかに偏見なく、対話的な関係を作れるかどうか(差別・偏見の低減)”を重要と考えている。関係性変容のためのツールが、ゲーミングという教材である。

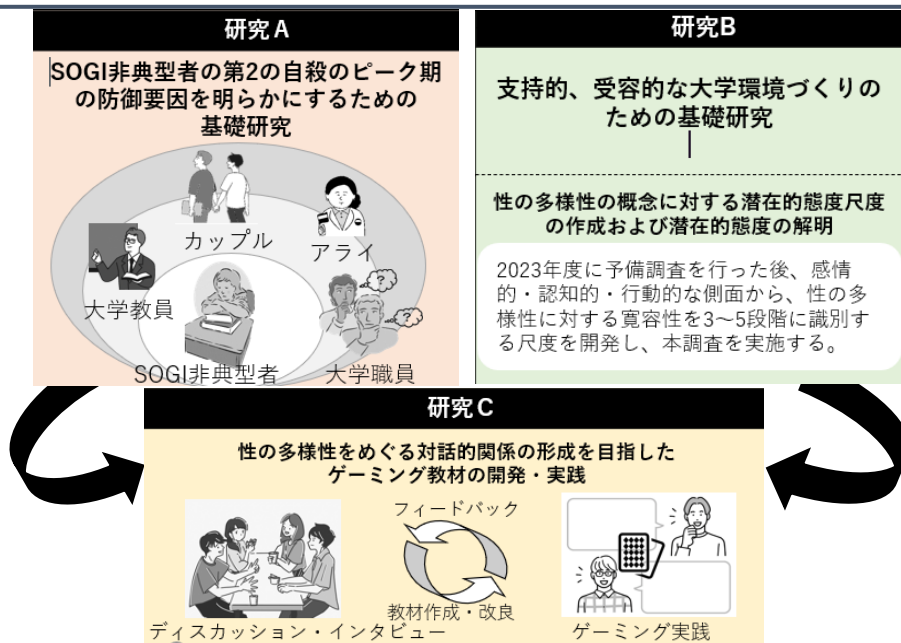


図1 本研究の構成

性の多様性を理解し、多様な解をうみだす対話的ツールの開発と自殺予防

心理学およびその関連分野

研究成果

【研究A】SOGI非典型者を対象とした研究

- ①青年期以降の親密な関係における多様なありかたの1つの発達経路として、ゲイカップルの関係性の発達を明らかにした。第1にセクシュアリティを核とした長期的なパートナーシップを持つことに対する選択肢が成人期以降、他者に触発される形で出現した。第2に親しく、くつろぐことのできる関係性が構築されていた。第3に2人のパートナーシップ関係を支える独自のネットワーク（友人、ロールモデルとしての高齢期同性カップル）があり、関係性の修復や今後歩んでいく人生の見通しを持つことを可能にしていた。第4に、安定した関係のなかでも、2人の関係性を承認する他者の不在により、公認されない悲嘆（Doka, 2002）が垣間見られた。
- ②身体を含んだ性同一性を「性的自己」と呼び、その顕れ方からある性別を引き受けることがどのようなことなのか、すなわち身体（よそおいを含む）を自己や他者、社会にいかに関与していくのかについて明らかにした。性的自己が定位するまでに揺らぎがみられたSOGI非典型者へのインタビューを行った結果、性的自己の変容プロセスを描出した。

【研究B】大学教職員、SOGI典型的な学生を対象とした研究

これまでの研究から教職員とSOGI非典型的な学生との間のディスコミュニケーションがある（図2）。若年者に対応する際に、教育現場におけるルール、共同体、分業体制における齟齬や道具の不在が背景にあることが明らかになった。

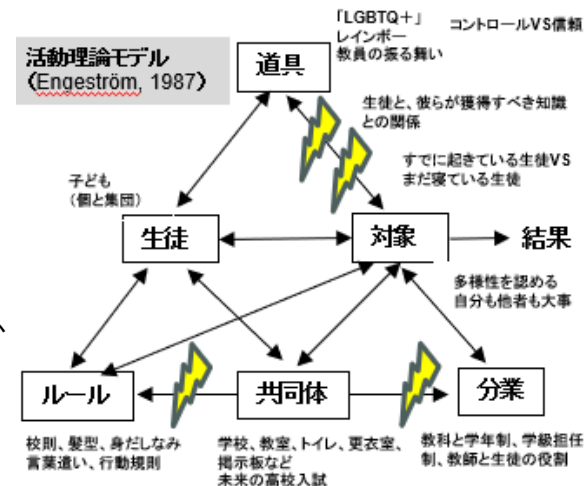


図2 多様な性を生きる若年者に対する大人（教員）の意識と対応

今後の展望

●今後の展望・期待される効果

性の多様性を理解する根底にはそれぞれの人生観や育ってきた文化の中で育まれた多様な価値観、ナラティブ（物語）が存在する。今後は、専門家が一方的に知識を提供するのではなく、参加者が能動的に「性の多様性をめぐるナラティブ」をぶつけ合い、多様な解を生み出すことができる媒体としてゲーミングの実践を進める。そして、性の多様性を理解し、SOGI典型者と非典型者の間で対話的な関係を形成できるようなカードゲーム教材（盤上ロールゲーム）を開発することが今後の展望である。



図3 大学生と教員による対話的实践